

## 会 議 録

会議の名称	第2回旧笹川家住宅保存活用計画策定検討委員会
開催日時	平成28年3月1日（火） 13時00分から15時45分まで
開催場所	新潟市南区役所4階講堂
出席者	<p><b>【旧笹川家住宅保存活用計画策定検討委員会 委員】</b>  石垣委員、海津委員、黒野委員（会長）、南雲委員、山崎委員（会長代理）  後藤委員（会長代理）、堤委員</p> <p><b>【オブザーバー】</b>  新潟県教育庁文化行政課 祝主任調査員</p> <p><b>【幹事】</b>  新潟市建築部公共建築第1課 菊地課長  新潟市文化スポーツ部歴史文化課 渡辺課長（代理出席 入江副参事）  新潟市観光国際交流部観光政策課 関川課長（代理出席 富井課長補佐）  新潟市南区役所産業振興課 野内課長</p> <p><b>【事務局協力員】</b>  新潟市文化スポーツ部歴史文化課 入江副参事  新潟市文化スポーツ部歴史文化課 福田主査</p> <p><b>【事務局】</b>  新潟市南区役所地域課 永井課長  新潟市南区役所地域課 高橋課長補佐  新潟市南区役所地域課 滝沢係長  新潟市南区役所地域課 川瀬主査</p> <p><b>【支援業者】</b>  パシフィックコンサルタンツ株式会社（以降「PCKK」と記載）佐野、宮森、紙野</p>
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 議事 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) これまでの笹川邸の保存活用の取り組みについて</li> <li>(2) 調査報告と意見交換 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「旧笹川家住宅」の役割・特徴と現状について</li> <li>・「旧笹川家住宅」のとらえ方と保存活用の方向性について</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>3. 次回の日程について</li> <li>4. 閉会</li> </ol>
会議資料	会議次第 旧笹川家住宅保存活用計画策定検討委員会検討資料 旧笹川家住宅保存活用計画策定支援業務 調査資料（参考）

## 会議内容(要旨)

### 1. 開会

事務局	第2回旧笹川家住宅保存活用計画策定検討委員会を開催いたします。 本日はアドバイザーとして、新潟県教育庁文化行政課から、祝主任調査員にご出席 いただいております。
祝調査員	よろしくお願いいたします。
事務局	本日はたくさんの方にお話ししていただきたいので、ご用件をまとめてお話しして いただければと思います。よろしくお願いいたします。また、皆様のお席にマイクを ご用意させていただきましたので、ご発言の際にはご利用ください。 それでは、これ以降の進行は黒野会長にお願いいたします。
黒野会長	本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。前回から本日までの 間に、このような充実した資料をご作成いただきました。今回は、皆様にご意見をい ただきながら、旧笹川家住宅の保存活用の方向性をはっきりさせていきたいと思いま す。円滑な進行ができるよう努めますので、どうぞよろしくお願いいたします。 本日は傍聴の方が1名いらっしゃいます。所定の手続きを経てご出席いただい ておりますことをご報告させていただきます。 後藤委員は遅れて到着されますが、本日は委員全員が揃います。堤委員は前回ご欠 席されていたので、簡単に自己紹介をお願いいたします。
堤委員	現在、笹川邸の2件隣に住んでおります、堤と申します。笹川邸魅力再発見プロジ ェクトのメンバーでした。よろしくお願いいたします。
黒野会長	ありがとうございました。

### 2. 議事

#### (1) これまでの笹川邸の保存活用の取り組みについて

黒野会長	これまでの笹川邸の保存活用の取り組みについて、事務局から説明をお願いしま す。
事務局	事務局からご説明させていただきます。 (説明) 説明は以上です。
黒野会長	ありがとうございました。ご質問などはございますか。特になければ次に移らせて いただきます。

#### (2) 調査報告と意見交換

黒野会長	調査報告については、PCKKから説明をお願いいたします。
PCKK	よろしくお願いいたします。

	<p>(説明)</p> <p>説明は以上です。</p>
黒野会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>先ほど、後藤委員が到着されました。後藤委員は前回ご欠席されていたので、意見交換に入る前に、簡単に自己紹介をお願いいたします。</p>
後藤委員	<p>遅れて申し訳ございません。工学院大学の後藤と申します。もともとは文化庁におり、建造物の重要文化財指定に関する仕事を11年担当していました。その後、大学に出て15年ほど経ちます。</p> <p>新潟とは縁があって、大学院の時に佐渡島の近世社寺の調査を行いました。また、新潟市の旧小澤家住宅の整備活用検討会や、その後の耐震改修をお手伝いさせていただきました。その前には、旧日銀支店長宅の整備や、旧第四銀行住吉町支店の移築などにも協力させていただきました。</p> <p>笹川邸には何度も来ており、非常に思い入れがあります。笹川邸は良い建物なのですが、活用の仕方が静的なので、もっと活発に使えるものかと以前から考えておりました。何か力になれることがあればと思っています。よろしくをお願いいたします。</p>
黒野会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは議事に戻らせていただきます。PCKKから、旧笹川家住宅の役割と現状についてご説明いただき、そのとらえ方と保存活用の方向性について案をお示しいただいたところですので、それについてのご意見でも構いませんし、それ以外のご提案でも構いません。お気づきの点があればぜひおっしゃっていただければと思います。いかがでしょうか。</p>
後藤委員	<p>笹川邸にしょっちゅう来ていた私からの印象を述べさせていただきます。</p> <p>せっかく作った曾我・平澤記念館と、笹川邸の関係が切れているという印象を受けます。この2つを関係付けて、一緒の施設であるということが見えるように活用しなければならないと思います。</p> <p>笹川邸に何度も足を運ぶ中で、中ノ口川の土手から表門を通して見ると、この建物が非常に見栄え良く見えると感じました。私はそこから撮った写真をたくさん持っています。しかし、もったいないことに目の前には電線が通って、手前の一番いい場所は駐車場です。新潟は車社会なので、車のアクセスは非常に重要なのですが、表門前の一番いい場所が駐車場になっているというのは良くないと思います。</p> <p>また、表門から入るのが簡単過ぎるのではないかと感じます。どういうことかという、先ほど説明があったとおり、お殿様のような偉い人の通った場所です。私の勝手な意見を言えば、通常は曾我・平澤記念館側から人を入れて裏側から案内し、後で土手にも上がって見てもらうようにするなど、ここでの時間の使い方や見せ方を工夫</p>

	<p>すると、もう少し違う活用のしかたができるのではないかと思います。どこから見せ始めるかというのは非常に大事だと思うので、車をどこに停めるかということと一緒に検討すると良いと思います。</p> <p>ここの状況は少し違いますが、大きなお屋敷でうまく活用されていると思うのは、角館市で一番大きな武家屋敷である青柳家です。角館はもともと観光客がたくさん来ている重要伝統的建造物群保存地区なので、笹川邸とは状況は違いますが、大きなお屋敷を退屈させずに見せるやり方が非常にうまいと思うのです。</p> <p>青柳家では、観光客を自由に歩かせず、ガイドを付けて屋敷やお庭をぐるっと案内します。いくつも展示館がある広い敷地ですので、疲れないように案内の途中ではお茶を出して休憩もします。奥には売店やお食事どころがあるので、休憩ついでに何か買いたくなってしまいます。見せ方も、展示館のように活発に活用する場と、古いまま見せている場所があり、メリハリをつけていて非常にうまいと思います。</p> <p>このように広いお屋敷を見せる工夫はとても参考になるとと思いますので、活用される担い手が決まれば、みんなで見に行くの良いのではないかと思います。</p>
黒野会長	青柳家の駐車場は少し離れた場所にありますね。
後藤委員	そうです。武家屋敷通りにあるので、ほかの武家屋敷を見ながら歩いていきます。
南雲委員	<p>勝手に歩かせないというのはとても良い方法だと思います。見せたい部分を、より魅力的に見せるためには、ガイドというのはとても良いことです。ただ、一点気になったのは、説明の中であった「地域の人が盛り上がっていない」というところです。</p> <p>私は、3年くらい前までの5年間、湯沢町の中学生に観光ガイドの教育をしていました。中学生はよく覚えてくれて、英語でもガイドができるようになりました。実際に観光客を案内すると、観光客はガイドの子どもたちをよくほめてくれるので、子どもたちはとてもやる気が出て、家で自慢したり、家族を連れてきてガイドをしたりするようになりました。</p> <p>子どもたちがやる気になって頑張っている姿を見ると、地域の大人たちが応援してくれます。地元の人々のやる気を呼び起こすために、このような地元の人たちが地域の事をついつい自慢したくなるような仕組みや、地域の人々のやる気をそそるような試みがあると良いと思いました。</p> <p>また、車でくるのも良いのですが、新潟ふるさと村にウォーターシャトルが来ているので、船着場をつくってここまで船で来られたら面白いと思います。</p>
黒野会長	ガイドがあることによって、観光客の充実感が高まります。車だけではないアクセス方法もご提案いただきました。
堤委員	私は地元住民で、ここに住んで30年近くなりますが、はっきり言って地元の人々の関心はありません。ごくごく一部の関心がある方々が、ボランティアガイドで案内をし

	<p>ている状況です。</p> <p>なぜ関心を持たれないかという、昔は強大な権力を持ち、旦那様と呼ばれ、笹川家は非常に遠い存在だったということが背景にあります。私はここへ嫁に来たのですが、義理の母は「笹川家の前は走って通る」とか「見てはいけない」「中がどうなっているかは知らない」と言っていました。今はその世代から変わってきていますが、そういう親たちに育てられた子どもたちですから、気軽に関われるものでないのだと思います。</p> <p>今は小学3～4年生が総合学習の時間で、年に何回か笹川邸を訪れており、ここ数年ではボランティアガイドの指導を受けながら、笹川邸をガイドできるような学習が行われています。そして、他の学校の同じような年の子どもに向けてガイドを行っています。</p> <p>しかし、この取り組みは小学校3、4年生で終わってしまって、その後は続いていきません。先ほどお話があったように、中学生まで関わることができればとても良い活動ができるようになると思います。来年度、味方小学校と味方中学校が小中一貫教育パイロット校になるので、小中で連携して笹川邸の学習ができるようになるのではないかと期待しています。ガイドや、地域の関心を高める取り組みは、そこからスタートしていければ良いなと思っています。</p>
黒野会長	<p>地元で取り組まれているガイドの取り組みをご紹介いただきました。ガイドを頑張る子どもたちが、地域の関心を高めることにつながるという南雲委員のお話につながります。</p>
山崎委員	<p>私は、外構や緑地が専門なのですが、日本の家屋は部屋の中から庭を見るという、外国にはあまりない楽しみ方をしています。ましてや、ここは寒くて雪の多い地域という特徴があります。そういうことを踏まえて、中と外の関係が感じられるような外の整備を考えていきたいと思っています。</p> <p>部屋の中から見た時の見え方や、後藤先生がおっしゃったような門の外から見た時の見え方は大切です。色々な事情があったと推測されますが、表門側から見ると、今は何もありません。1本木を入れるだけでも、遠近感、壮大さや広さ、季節感が感じられるようになります。</p> <p>外構空間は、「座敷に座るとあそこにあれが見えて良いな」と思える整備の仕方を考えたいです。今は木々がジャングルのように鬱蒼と茂っていて、夏場は蚊の温床です。このままでは外でワークショップをしようにも、蚊取り線香と虫除けスプレーという薬漬けになってしまいます。ランドスケープ的に植えられたものと鳥が運んできたものの判断は難しいですが、ボリュームを抑えて、風通しを良くしていかなければなりません。排水計画もきちんと立てていかれるということなので、水の滞りがなく</p>

	<p>なるともっと良くなると思います。</p>
黒野会長	<p>建物と庭を関連付けることによって、双方の価値が伝わり易くなるというのは大事な視点をご指摘いただきました。</p>
後藤委員	<p>地域の人が笹川邸をうまく使ってくれることが大事ですが、そのためには、集まりたくなる工夫をしなければなりません。どうすれば自然に集まってくれるようになるでしょうか。</p> <p>重要文化財なので古いまま保存されていますが、今の時期は大変寒いんです。これでは人は集まりません。古い建物なので完全に快適な環境にはできませんが、地域の人が集まる場所として使える空間にしなければなりません。例えば、旧小澤家住宅は一見畳敷きのように見えるのですが、人を集める部屋には床暖房を入れています。</p> <p>今日は午前中に桐生市へ行って、活用に成功している明治館という重要文化財を見ってきました。明治館は施設の一部を小さなギャラリーとして貸し出していて、それが市民によく利用されています。また、ギャラリーには小さなカフェが併設され、コーヒーを飲むことができます。地元市民がギャラリーで展覧会を開くと、お友達がたくさん見に来ますし、カフェにも寄っていくので、カフェも潤っています。小さなギャラリーが市民のニーズに合ったというのは偶然だったのかもしれませんが、このように地域の人が集まりそうな機能を施設に当て込むのはひとつの手だと思います。</p> <p>私の個人的な意見では、展示を少し休んででも、近代的な建物である曾我・平澤記念館を住民のためのサロンにすれば足を運んでもらえるのではないかと思います。記念館は空調が整っていますから、集うには十分な環境です。記念館の部屋を自由に使って良いとなれば、地元の人が喜んで使ってくれるのではないかと思います。</p> <p>重要文化財だからといって怖がらないで、使いやすくして、いろんな学習ができる場というイメージを持ってもらった方が良いと思います。今は、文化財もどんどん活用しなさいと言われる時代です。</p>
堤委員	<p>実は、曾我・平澤記念館もすでに地域の市民サークルの展示に使われているのですが、入場料がネックになっています。興味があっても、500円払ってまで行くのは嫌だと思える人は少なくありません。地元の人にたくさん足を運んでもらおうと考えるに当たって、地元民の目線からすると、1回500円というのは正直高いです。価格に見合うだけ楽しめる施設であれば問題ないと思いますが、ご存知の通りお茶も飲めないし、歩いて見て終わりです。</p> <p>展示会があるときの割引や、地元の人への割引など、料金設定も検討したいと思います。</p>
後藤委員	<p>そうですね、料金の取り方はもっと考えて、工夫した方が良いと思います。例えば、これだけ大きな重要文化財ですから、文化財保存協力金として駐車場代に500円いた</p>

	<p>だいた方が、気持ちよく払ってもらえると思います。アメリカなどでよく取り入れられている方法ですが、一部が無料で、それ以外の場所は有料とするのも良いと思います。ガイドの人が、その先も見たくなるようなうまい案内をするのです。菅沼などの合掌造り集落では、保存協力金として駐車場代をもらって、そのお金を原資に茅葺きを補修しています。</p> <p>料金については施設条例を見直せば対応できると思うので、ぜひ検討すると良いと思います。</p>
山崎委員	<p>以前、名古屋の白壁町にある民家の改修に関わりました。その時は古い木造住宅を改修して、庭を近所の有名な作庭家の指導のもときれいな洋風庭園に整備しました。手前にはテラスのような建物をつくって、かっこいいカフェマシンを置いて、市民のいこいの空間として自由に使ってもらえるようにしました。管理の女性がピアノが弾けるので、お昼にはコンサートを開きます。入場料は500円なのですが、一日いられて楽しめるので、まるでお釣りがくるようです。</p> <p>カフェを併設するのは大変ですが、今は簡単にわりと美味しいものが飲めます。普通の自販機だとつまらないけど、しゃれたマシンがあるだけで一味違います。</p>
海津委員	<p>皆さまのお話を、素晴らしいな、まったくその通りだなと思って聞いておりました。</p> <p>やはり、人が大事だと思います。地元の方すら寄り付かない施設では、観光で人を呼ぶことは難しいと思います。笹川邸を人が集まる施設にするためには、魅力ある施設に生まれ変わらなければなりません。</p> <p>文化財保護の観点からも建物を修復していかなければならないし、お庭の整備もあります。こんなに歴史を詳しく調査していただいたのですから、これをもとに本来の姿に修復して、魅力を向上できればいいなと思います。</p> <p>ソフト面では、やはりガイドが大事だと思います。私も地元民ですが、自分たちだけで笹川邸に行ったときには魅力を感じませんでした。しかし、吉田さんのガイドを聞きながら回ったら、感心することがたくさんあって、とても魅力を感じるようになりました。小さい字で説明文が書いてあるパネルが置いてあるだけというのはつまらない見せ方です。地元の事を良く知る人から、「この屋敷はこういうところで、この部屋はこういう風に使われた」という話を聞き、価値を知ることによって関心が高まると思います。</p> <p>担い手不足というお話がありましたが、本当に担い手がいません。少子化で子どもも少ないですし、我々のような仕事をしている人にやれといっても平日は集まれません。職場をリタイアされた年齢層の方のご協力も得ながら運営できれば良いと思います。</p>
石垣委員	<p>後藤委員が冒頭でおっしゃったように、私も以前から笹川邸と曾我・平澤記念館が</p>

別物であるように感じられるのが気になっていました。笹川邸自体の活用の中で、曾我・平澤記念館をうまく活かしていかないと、このまま分断された状態がずっと続いてしまうと思います。

私は先人顕彰施設に関する仕事をしているのですが、先人館の難しいところは新たな資料や創造物が出てこないのも、先細りしないための工夫をしていかなければならないということです。曾我量深先生についても、平澤興先生についても、それぞれすばらしい資料があるのに、いつも同じ展示で、一回見れば十分だなど思われていると思います。いつも代わり映えのしない展示室ではなくて、学芸員を入れるなどして、動的なものに変えていくことを考えてはどうかと思いました。

地元の人のサロンにしたり、ボランティアガイドを育成する場所として定期的な活用ができるようにすることも必要だと思います。地元のことは意外と知らないもので、分かりはじめるとおもしろくなってきます。そういう中で、旦那様と言われた笹川家を身近に感じられるようになるのではないのでしょうか。

結構うまくやっているところでは、地元の人が資料を集めて、曾我・平澤記念館のような場所を使って勉強しています。例えば、世界遺産になった大森銀山の近くにある熊谷家という重要文化財では、食事などの生活系の資料がたくさん残っていて、主婦の方々が研究をしています。勉強して冊子をつくったり、イベントのときにはお座敷で昔の食事を出したりして楽しんでいます。笹川家の資料はあまり残っていないと伺っていますが、使えそうなスペースはたくさんあるので、記念館にひとつ研究用のスペースを設けるなどして、自主的な企画展示イベントができるようにするのも良いと思います。

後藤委員

また、子どもの関係で、元塩山市の塩山の駅前にある甘草屋敷旧高野家住宅という重要文化財では、近所の人から本を寄付してもらって、たくさんある付属棟のうちの一棟を子ども用の図書館にしています。そこでは近所のお年寄りが子どもの世話をしている、遊んだり勉強したりできるので、共働きの親にとっても安心です。この地域で需要があるかはわかりませんが、駅前ということもあり、とても流行っています。地域ニーズを見極めることが大切です。

先ほど、PCKKが笹川邸周辺の資源図を出してくれましたが、新潟の人は車に乗って移動する人が多くて歩く人は少ないので、笹川邸の見学と近所のウォーキングをすると2～3時間の良い感じのイベントになると思います。ウォーキングの後には笹川邸の庭で芋煮などのお食事を出すのも良いですね。地域のイベントが年に1～2回あるだけでも地域の認識が変わると思います。イベントでまち歩きを行うと、それがそのうちボランティアガイドコースに発展すると思います。自分たちが歩いてみて、それがよその人を楽しませるものにつながると良いのではないかと思います。

黒野会長	地域を実際に歩いてみて発見をするのは重要なことと思います。
山崎委員	<p>富山県の氷見で、ある研究室が倉庫をリノベーションして博物館や資料館をつくらうとしている動きがあります。その中で、学生たちが町の中をリヤカーを引いて歩いて農具を集め、その時に地域の人とお話ができたり、歴史の掘り起しができたりして倉庫の中の活用につながっているそうです。</p> <p>旧笹川家住宅のお屋敷はもちろんすごいのですが、蔵が点在する景色もおもしろい空間だと思ったので、単純に農文化を伝えるだけではなく、もっともっと魅力的な使い方ができると思います。逆に裏門のあたりはまったく整備されていなくて、なんとなく行きたくない雰囲気があるので、例えば嫌われる喫煙所をそのあたりに設けるのも動線をつくる一つの方法だと思います。</p>
黒野会長	石垣委員から、曾我・平澤記念館の展示を固定的なものではなくて、入れ替えがあればもっとおもしろくなるのではないかというご指摘がありました。蔵に記念館の収蔵品の一部を展示して、時々展示替えするという方法も考えられそうです。蔵はたくさんありますので、一つに固定せずにいろいろな使い方ができると良いと思います。
堤委員	笹川邸周辺には曾我量深の生家や諏訪神社がありますが、ウォーキングをするには景観が悪いことが気になります。屋敷全体もそうですが、特に周りを囲う堀が非常に汚いです。渡辺邸を見学したことがあるのですが、気持ち良くらいにきれいな水が流れていました。それに比べると、笹川邸のまわりはあまり歩きたくなるような景色ではありません。実際、近所の人の散歩コースにもあまり使われていないように見えます。そのあたりの整備もぜひ行っていただきたいと思います。
後藤委員	<p>屋敷の周辺環境を良くすることはとても大事なことだと思います。近江八幡は町並み保存地区で有名な観光地になっていますが、そこも堀がどぶ川になっていたのも、後に市長になる方が掃除を始めました。どぶ川がきれいになると、たくさんの方がすばらしいと感じて、ファンが増えていったそうです。</p> <p>「この家があるから自分の地域が誇れる」というイメージにならないと、地域の人が家のためになにかをしようという意識にはなりません。住民にとって、子どもにとっても「ここは良い場所だ」と思ってもらうことはすごく大事なことです。</p> <p>ちなみに、笹川邸というのはすごい家なのです。最初の指定は昭和29年なのですが、これは全国で民家調査が始まる前なので、笹川邸は日本の民家で最初に文化財指定されたもののひとつです。また、昭和53年には屋敷地が指定されましたが、土地が建物と一緒に文化財指定できるようになったのが昭和50年のことなので、これもとても早いのです。笹川邸は、日本の民家の保存に関する動きがステップアップするときに真っ先に手を付けられてきた家です。屋敷構えの評価は当時から大変高かったということです。その屋敷構えがどぶ川になってしまっているのはとても勿体ないことです。</p>

	<p>今回の整備では、屋根をこけら葺きにする検討もされると思いますが、私は屋根をこけら葺きにするお金があるのならば、屋敷地まわりの整備をする方が良いと思います。もちろん、通常の農家は茅葺き屋根なのに、ワンランク上のこけら葺き屋根だったというのはこの家の特徴のひとつなのですが、勾配を見れば茅ではなかったことはわかりますし、復元後も維持費がかかります。優先すべきは屋敷地の整備なのではないかと思います。</p> <p>笹川邸は、中ノ口川沿いにあるという景観も魅力ですね。私は何度も訪れてそこに一番感動しました。</p>
<p>黒野会長</p>	<p>周辺の水は建物の良さが発揮される大事な要素であるということをご指摘いただきました。水は流れることに本質があります。その状態を取り戻す必要があります。</p> <p>もともとは郷蔵所のところに船着場があって、お米をそこから新潟湊へ運んだという話もありますし、水運というのはこの地域にとって大切なことです。堀の水質については農業用水との折り合いがあるかと思いますが、良い方法を見つけていきたいと思っています。</p>
<p>南雲委員</p>	<p>観光客の目線からの考えを述べさせていただきます。</p> <p>音声ガイドだけのご案内では、再来したくなるリピーターはつきませんので、施設内にガイドさんがいた方が良いです。また、現在門の前にある受付を、建物の中に戻した方が良いのではないかと思います。観光客が興味を持ったとしても、あそこに受付があると威圧感があります。</p> <p>季節が体感できるものも欲しいです。花でも良いし、先ほど説明にあったような繭玉も良いですね。お雛様で成功している地域もあるので、そういうのをまねしてみるのも手っ取り早くて良いと思います。日本の行事を体感できるようなものがあると、国内の観光客はもちろん、今注目の外国人観光客も呼び込めると思いますので、英語のキャプションも付けていただければ良いなと思います。</p> <p>質問なのですが、笹川邸にはバックヤードと水場を整備する予定はありますか。建物の中にバックヤードや水場があると、活用の幅が広がると思います。行事の物をお客さんの目に触れさせないようにしっかりしまっておく場所は必要ですし、きれいな水場があれば気軽にお茶出しやお茶会が開けます。今までは貸室を行ってこなかったということなのですが、貸室もぜひ行っていただきたいです。あまりハードルをあげずに利用できるようにしてほしいです。</p> <p>また、笹川家というのは、なんとなく県内の人から忘れられているような印象を受けますが、忘れられたところには人が来ないので、忘れられてはいけません。その点、新津は忘れられる前に新聞に載せたり、テレビ局を呼んだりして、メディアを上手に使っています。新聞やテレビも常にネタを探しているので、計画的にメディアを利用</p>

	<p>することが大事です。しかし、メディアは、笹川家が笹川家らしいことをしているだけでは注目しません。例えば、「斎藤家別邸で假屋崎省吾の生け花展示」というような意外性が必要です。他にも、子どもを活用すると注目度が上がります。忘れられないためのメディア戦略についても、この計画に盛り込んでいただきたいと思います。</p>
黒野会長	<p>バックヤードや水場について、PCKKからお答えをお願いしますか。</p>
PCKK	<p>図面で、この場所をバックヤードや水場にしてはどうかという提案をさせていただいております。</p> <p>表座敷と居室部にはもともとのトイレがありますが、いずれも文化財であるので使うことができません。しかし、積極的に活用するためにはトイレが必要ですので、ご家族と使用人のトイレがあった場所に、来館者のためのトイレをつくってはどうかと考えました。ただ、笹川家が村に移管されたときに、トイレをかつての状態に復元する修理が行われているのに、それをまた新しいトイレに改修することの是非については議論が必要だと思います。</p> <p>また、今後ここで郷土料理を振る舞うような活用をしたら、勝手場そのものを改修するよりも、隣の物置に現代的な水回りを整備する方が良いのではないかと思います。</p> <p>受付は、下男部屋に設ける提案をしております。聞き取り調査の中で、「管理人は掃除をしていて一定の場所にいないため、常にお客さんを案内することができない」という話がありました。そのため、受付の方が建物の中にいれば、常にお客さんを案内することができますし、館内に2人のスタッフがいれば目の届く範囲が広がるので、囲炉裏に火を入れることもできるようになると思います。</p>
後藤委員	<p>受付というのは、四六時中案内することが前提になっていると思いますが、海外では決まった時間にしか案内しないという事例が結構あります。自由に見学したり、ミュージアムショップを見たりしていると、決まった時間にガイドが来て案内を始めるというものです。ガイドがとてもうまくて、案内の中で「あれはさっきショップで見ましたね」なんて話もするので、ガイドが終わるとお土産を買いたくなくなってしまいます。こういう風にすると、手間も省けるし、収益もあがります。受付をガイドのいる場所に集約することで管理もしやすくなります。</p> <p>私は、中をすべてフリーに見せなくていいと思います。例えば、表座敷は格式が高く近寄りがたいものですので普段は非公開にして良いと思います。地元の人だけは毎日見られるけれど、よその地域の人はこの日しか見られないという風にするのも良いと思います。勿体つけた方が価値も上がりますし、常に目を光らせておく必要もないので管理も楽です。そういうことも検討したら良いと思います。</p>
海津委員	<p>笹川邸が魅力的な施設に生まれ変わったら、地元の人から「こんなことをやってみ</p>

	<p>ないか」と自由な発想で提案してもらって、より多くの人に関わって欲しいと思います。しかし、普通の人には重要文化財というとても敷居が高く感じてしまうものです。火の使用、夜の活用、触れるのか、入れるのか、色々な制約があるけれど、何をやってよくて、何をやってはいけないのか分かりにくいと活用しづらいと思うのです。計画の策定に併せて、地元の人向けに活用のためのルールブックづくりを行ってはいかがでしょうか。火を使って良い区画などが一目でわかるようなものがあれば、きっと役に立つと思います。修繕の段階に合わせて作成するのも良いと思います。</p>
堤委員	<p>今の管理人さんは味方の方ではなくて、退職した元市職員です。そして、管理人さんは毎日いるわけではありません。受付も、毎日同じ方ではなくて、何人かの方が日替わりで務められています。このような状態ですので、現状は案内をしてもらうことが非常に困難な状況です。ボランティアガイドがいない時は、音声に頼るしかありません。</p> <p>私は、地元の雇用を生むという面でも、管理も受付も、もっと積極的に地元の人間を登用してもらった方が良いと考えています。笹川邸への愛や思いがないと、通り一遍等のことしかしてもらえません。</p> <p>今は囲炉裏に火を入れられていませんが、囲炉裏に火が入れば家の中に暖かさを感じられるようになります。常に人がいるという状態をつくるのが大事だと思います。</p>
後藤会長	<p>火を使うことについては、民家園に移築した重要文化財でもどんどん火を入れて使うようになっていますので、まったく問題ありません。条例で「火気厳禁」と書いてある場合がありますが、それはよその人が勝手にたき火や喫煙をすることを禁止しているのです。管理上や利用上であれば消防も規制するつもりはないそうです。</p> <p>しかし、万が一火災が起きたら大変なことになるので、ここの広い庭を使ってみんなが防災訓練を行ったりすると、より親しみがわくのではないかと思います。文化財の防災設備はしっかりしているので、笹川邸のそういう部分を見るのも面白いと思います。</p> <p>活用のためにやることは、どんどん提案してもらいたいです。</p>
黒野会長	<p>今後につながる大事なご指摘をありがとうございます。</p> <p>PCKKから、旧味方村時代に改修したトイレをまた活用のために再整備することには議論が必要とのお話がありました。ご意見をうかがっていくと、親しまれるためには活用しやすくすることが大切だという考えが多く、このような改修に反対する意見はなかったと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>PCKKの視点で、他にこの場で検討したほうが良いというところはあるでしょうか。</p>
PCKK	<p>説明では詳しくご紹介しなかったのですか、居室部の二階部分の増築の方法に無理</p>

	<p>があって、全体的に歪んでしまっています。問題がなければ、二階に積極的に人を入れたいところですが、そのためには小澤家住宅のように鉄骨で補強しなければいけません。しかし、補強をすると、支える鉄骨が一階のお座敷に出てきてしまいます。活用を図ろうとするあまり、もともとの価値の良さがなくなってしまう恐れがあるので、そのバランスをどのように考えたら良いでしょうか。</p> <p>また、庭園に関してですが、いくつか手がかりになる図面を見ると、庭にはもう一つの池と、茶室があったことが推測できます。それをどこまで調査するかというのも検討したい点です。庭は文化財ではないので、こうでないといけないというものはありません。庭をトレンチしてみて記録をとるのも、池や茶室そのものを復元するのも、考え方次第ですが、どのように考えたら良いでしょうか。</p>
黒野会長	<p>ありがとうございます。補強は建物にとって極めて重要なことですが、本当の良さを損なわないように、必要であればなるべく見えないように補強することになるでしょうか。居室部の二階を使いたいという意見は今まで出なかったもので、二階に人をあげるために補強をすることの優先順位はそれほど高くないと感じています。</p>
後藤委員	<p>旧小澤家住宅の時も、2階の高さが高くて耐震補強が大変でした。地元の人にアンケートをしたら、眺めが良いのでそこに上がりたいという意見がたくさん出た場所があったので、そこは年に何回かだけ案内を付けて上げられるようにしました。どうしても耐震補強が難しい場所もあって、そこには危険があることを前提に、管理者側として入ってもらうことにしました。</p> <p>旧小澤家住宅の補強の特徴は、「補強を見せた」ことです。似たような家は周辺にたくさんあります。その町並みを今後も残していくためには、一定の補強が必要ですから、その人たちの参考になるように、わざと色々な種類の補強を入れて、耐震補強の展示場のようにしました。ボランティアガイドは補強方法の説明もできるのです。もっとも、笹川邸にはこの機能は必要ないと思います。</p> <p>耐震補強は、続き間で大きく開放して使いたいところが難しいのです。開放すればするほど弱くなります。逆に部屋が細切れになっているところだと、ふすまのように見える壁に改修すれば、開閉はできなくなりますが一番目立たない方法で補強できます。</p> <p>使い方があっての耐震補強ですので、あまり技術的なことにしばられずに、先に地域から「こういう使い方をしたい」と言ってもらう方が良いと思います。</p>
山崎委員	<p>池の復元についてですが、どんな庭も一番難しいのは水の管理です。あえて水を復元しなくても、見せ方として枯れ池みたいに玉石をおいて、「ここに水があったんだよ」と説明できれば良いのではないかと思います。昔みたいに湧水があったり、川から水路がうまくつながってオーバーフローできれば良いのですが、敷地の中のことは</p>

	<p>敷地の中で処理するのが今の考えですので、循環機械やポンプを入れなくてはなりません。この池がなかったからといって家の価値が下がるものではありませんので、あえて水がなくても、水を感じるしつらえがあって、ガイドさんが説明できれば多分に良いと思います。そこでお客さんが想像できるということが大事です。</p>
海津委員	<p>普段そんなに笹川邸へ通いませんが、二階が非公開になると聞くと惜しいなと感じます。武骨なH溝が出るのか、細いワイヤーが見える程度なのか、今の段階ではまだわかりません。補強の技術はいろいろあるし、目立たないやり方もあるようなので、完全なクローズにはしない方法を模索していかれたらと思います。</p> <p>以前、勉強のために二階に入れてもらったのですが、床柱がすごいし、Rのついた特殊な造りの戸があって、何百年も前のものなのにずっと開くことにととても感動しました。</p> <p>庭の池については、私も水がなくて良いと思います。山崎委員のおっしゃられた方法でも良いし、そこにあったことが説明できれば良いと思います。</p>
石垣委員	<p>どこをどの程度補強するか判断が難しいですね。図面を拝見して、いろいろな調査・検討を経てゾーニングしていただいたことがよく分かり、すごいと思いました。これだけ特徴が整理されているので、最初に後藤委員からご提案があったような裏から入る案を含めて動線を検討すると、活用の考え方がもっと整理されるのではないかと感じます。</p>
黒野会長	<p>PCKKの提案では、どのような動線を考えていますか。</p>
PCKK	<p>我々が図面でご提案している下男部屋に受付を移す案では、表門から入って、表座敷で受付して回るという、基本は現状と同じ動線です。</p> <p>笹川邸に来る方は、日常で来る方、じっくり見たい観光客、さらっと見たい観光客に分けられると思います。最低限、観光客の方には大庄屋としての歴史や価値だけでも見てもらいたいので、表座敷だけを回っていただく短いコースと、じっくり見たい人向けの蔵と居室部も巡るコースを考えました。蔵には笹川家に縁のある資料を展示して、大庄屋の歴史を学ぶことができるようにします。左下の網掛けの部分は、この動線上はじゃまにならないので、日常の話し合いの場に使える貸室にしてはどうかと考えました。また、三戸前口土蔵をギャラリーにする提案をしています。</p> <p>皆さまからご提案いただいた記念館と空地側から入る案や、無料の空間と有料の空間の考え方によっても動線は変わります。</p>
黒野会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>料金についてはいかがでしょうか。</p>
南雲委員	<p>最終的には地域の人を巻き込みたいので、地域の人が使いやすいような料金設定が良いと思います。私たちが検討委員会でこういったことを話しあっていることを地域</p>

	<p>の皆様は知っていますか。できるなら、地域の人に「こんな話し合いをしているのですが、どんな感じだったら活用してもらえますか」とか、「ここが無料だったらイベントをやりたいですか」というアンケートをとりつつ、こういう話し合いが進められていることを知っていただきたいです。</p> <p>動線については、今の笹川邸は、ディズニーランドで例えると入口となる正面の門をくぐると、すぐ目の前にメインとなるシンデレラ城がある感じです。最初からメインとなる表座敷を見せないで、静かなところから見始めて、最後にメインが登場するような動線の方が、観光客のわくわく気分が盛り上がるのではないかと思います。私は裏から入る案は思いつきませんでした。これはとても良い方法だと思います。</p>
堤委員	<p>魅力再発見プロジェクトの時に、地域の人から笹川邸についてのアンケートを取りました。今は手元に持っていないのですが、色々な項目があるので、それを見ていただくと地元の考えが分かると思います。</p> <p>今は笹川邸には表門からしか入れませんが、味方村の時は曾我・平澤記念館側から入ることもできました。裏門から入って、蔵を見ながら歩いて、勝手口から邸内に入るコースも良いと思います。入口は駐車場の場所とも関係しますが、楽友荘跡地を活用すると、今の場所以外に駐車場にできそうな敷地がないのが問題です。</p>
黒野会長	<p>駐車場の問題も検討すべき課題です。</p> <p>また、私たちだけで決めて押し付けになってしまっはいけないので、地域の人にどう使いたいかを確認する機会を設けることは大事なことです。</p>
堤委員	<p>地元の人は、笹川邸は使っはいけない施設だと思っています。簡単に入れない、使えない、触っはいけないと思っているので、まさか私たちに貸してくれようとしているなんて、想像もしていないでしょう。ですから、「皆さんに利用してもらいたいと考えているので、どのように使いたいですか」と問いかけてみることは必要かもしれません。</p>
海津委員	<p>笹川邸に魅力を感じてもらうために、しばらく地元の人は無料にしても良いのではないかと思います。</p>
黒野会長	<p>笹川邸の入り方については2通りの方法が出ましたが、委員の皆様の意見を聞くと、必ずしも表門からではなくて、利用の点では記念館側から入る方が良いと、裏側から入る案を支持する声を多くいただきました。本日の会議で入口のとり方についての方が見えてきました。皆様のご検討に感謝します。建物については、まだ検討すべきことが残っています。</p> <p>その他、特にご意見がなければ、祝調査員からご意見を伺いたいと思います。</p>
祝調査員	<p>活発なご意見をいただき、ありがとうございます。議論の中では新しい視点も出てきて良かったと思います。本日お話しいただいたことを踏まえながら、保存活用計</p>

	画を進めていただければと思います。
<b>3. 次回の日程について</b>	
黒野会長	次回、第3回検討委員会は、7月4日（月）1時15分を予定しておりますので、よろしく願いいたします。
事務局	本日は活発なご議論をありがとうございました。今回いただいたご意見を計画書に盛り込んで、次回の検討委員会でお示ししたいと思います。また、会議の後でも気づかれたことがあれば、事務局までご連絡いただければと思います。本日はありがとうございました。
黒野会長	以上をもって、本日の検討委員会を終了いたします。ありがとうございました。
<b>4. 閉会</b>	